



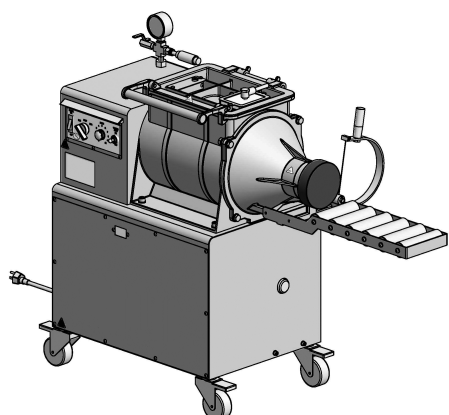
循環式真空混練機

取扱説明書

NVS-07

据付、運転、保守・点検の前に、
必ずこの取扱説明書をよく読んで
正しくお使いください。

お使いになられる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。



注意

使用前には取扱説明書をよく読んで、正しくお使いください。

- ・取扱説明書に従わない不適切な操作は、事故につながります。
- ・本製品は3人以上で開梱してください（梱包質量は170kg）
- ・開梱時および本製品の持ち上げ時は、手のすべりや落下に注意してください。
- ・本製品の移動時は、可動部を持たないでください。
- ・取扱説明書はいつでも見られる場所に保管してください。
- ・管理責任者を決め、取扱説明書を理解し使用許可認定された担当者のみが本製品を使用できるよう管理してください。

製品説明

循環式真空混練機 NVS-07 は、陶芸用粘土を作陶に適した状態に混練するためのものです。

機能説明

- ・ スクリューによる粘土や陶芸材料の混練ができます。
- ・ スクリューは、負荷（粘土の状態）に合わせて回転数の調整が可能。
また、回転方向を変えることで、混練と吐出が行えます。
- ・ 主要部はステンレスを使用しています。
- ・ 真空ポンプにより、ケース内の脱気が行えます。
- ・ 開閉センサにより、上蓋が開くとスクリューの回転が停止します。
- ・ ノズルとスクリューは脱着することができ、掃除が楽に行えます。

INDEX

安全上のご注意	3
仕様	5
各部の名称	5
梱包内容	6
据付・準備	6
ご使用の前に	7
インジケータの表示と内容	7
運転	7
使用準備	8
運転方法	8
運転中のトラブル	12
手入れ・メンテナンス・分解	13
廃棄方法	14

据付、運転、保守・点検の前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報、注意事項のすべてについて熟読してからご使用ください。

この取扱説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「警告」および「注意」として区分しています。いずれも安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。



この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険、または火災の危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。



取扱いを誤った場合に、重傷を負う危険な状態が生じることが想定される場合を示しています。



取扱いを誤った場合に、軽傷を負う、または物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定される場合を示しています。但し、状況によっては、重大な結果に結びつく可能性があります。必ず守ってください。

お守りいただく内容の種類を以下の絵表示で区分し説明しています



このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 危険

据付 混練機の据付に関する安全上の注意です。



水平な場所に設置。

ガタつきや傾斜していますと、振動や騒音が増大されることがありますので、確実に据付けてください。



本製品は重いため、取扱いに注意。

誤って足などの上に落下させると、ケガを負う恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。



水や雨水のかかる場所、湿気の多い場所に設置しない。

感電、漏電による火災、故障の恐れがあります。



タコ足配線はしない。










他の電気製品とコンセントを併用すると、過電流により火災の恐れがあります。









アースを行う。

感電事故防止のため、必ずアースをしてください。

運 転 混練機の運転に関わる安全上の注意です。

<p> 担当者以外は操作を行わない。</p> <p>施設など多くの方が使用する場所では、操作責任者を決め、担当者は操作責任者の監視の下、操作を行ってください。特に低年齢者には操作を絶対に行わせないでください。</p>	<p> 吐出口に手を入れない。</p> <p>粘土の吐出口に、絶対に手指を入れないでください。巻き込まれ、ケガの危険があります。</p>
<p> 服装に注意。</p> <p>投入口へ垂れ下がる恐れのあるネクタイ、エプロンなどは巻き込まれる恐れがあります。</p>	<p> 長い髪は束ねる。</p> <p>巻き込まれ、ケガの危険があります。</p>
<p> スイッチを濡れ手で操作しない。</p> <p>濡れた手でスイッチ操作や電源プラグの抜き差しをすると、感電する恐れがあります。</p>	<p> 使用しない時は、電源を切る。</p> <p>長期間使用しないとき、または落雷の恐れがある場合は、スイッチを切るだけでなく、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>
<p> 水をかけない。</p> <p>電源プラグや操作スイッチ、安全スイッチに水をかけないでください。また、粘土が付着したときは取り除いてください。</p>	<p> 使用しない時はバルブを開放する。</p> <p>使用しないときは必ずバルブを開放してください。粘土からガスが発生した際、ケース内部の圧力を逃がします。</p>
<p> 蓋に注意。</p> <p>蓋は重たいので、指、手、腕を挟まないように注意してください。ハンドルをしっかりと握り、ゆっくりと蓋を開閉してください。開閉途中で手を離さないでください。</p>	

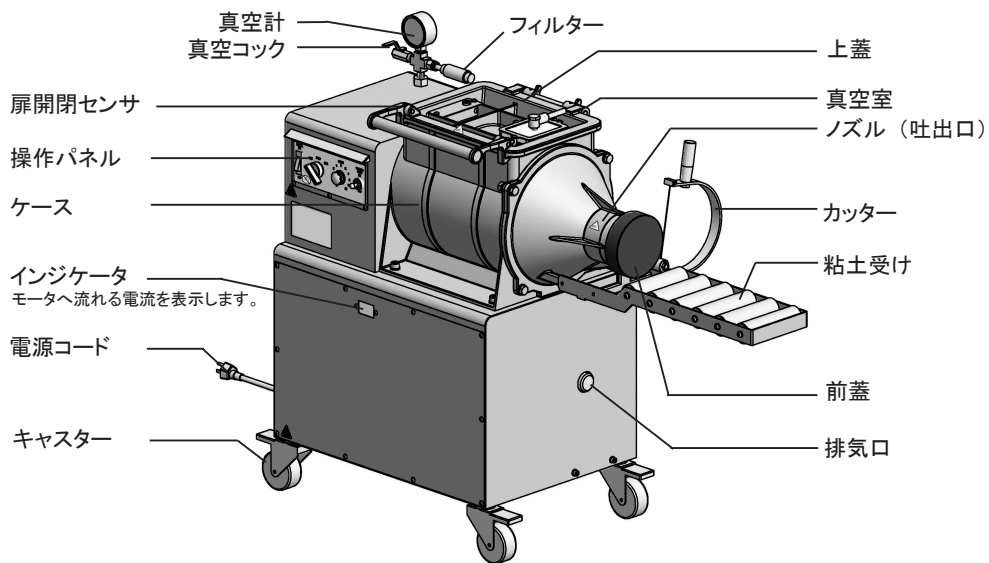
手入れ・メンテナンス 混練機の手入れ・メンテナンスに関する安全上の注意です。

<p> 点検時などは電源を切る。電源プラグを抜く。</p> <p>掃除、点検、調整、交換の場合はスイッチを切るだけでなく、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>	<p> 電源プラグはプラグを持って抜く。</p> <p>電源プラグを抜くときは、コードを引っばらないでください。感電、ショートによる発火の恐れがあります。</p>
<p> 劣化した電源プラグ、コードでは使用しない。</p> <p>電源プラグやコードが傷んでいたたり、コンセントの差し込みがゆるい場合は、使用しないでください。感電、ショートによる発火の恐れがあります。※電源コードが傷んだ場合は、購入先又は弊社へご連絡ください。</p>	<p> 水洗い厳禁。</p> <p>掃除は水洗い厳禁です。感電、故障の原因になります。布などできれいに拭き取ってください。※分解後のスクリュー、ノズルについてのみ水洗い可能です。</p>
<p> 改造禁止、陶芸用途以外での使用禁止。</p> <p>改造などを施して使用しないでください。陶芸用の粘土以外では使用しないでください。故障や事故の原因となります。</p>	<p> 真空工程以外では必ずバルブを開放する。</p> <p>使用しないときや混練工程では必ずバルブを開放してください。粘土からガスが発生した際、ケース内部の圧力を大気へ逃がします。</p>

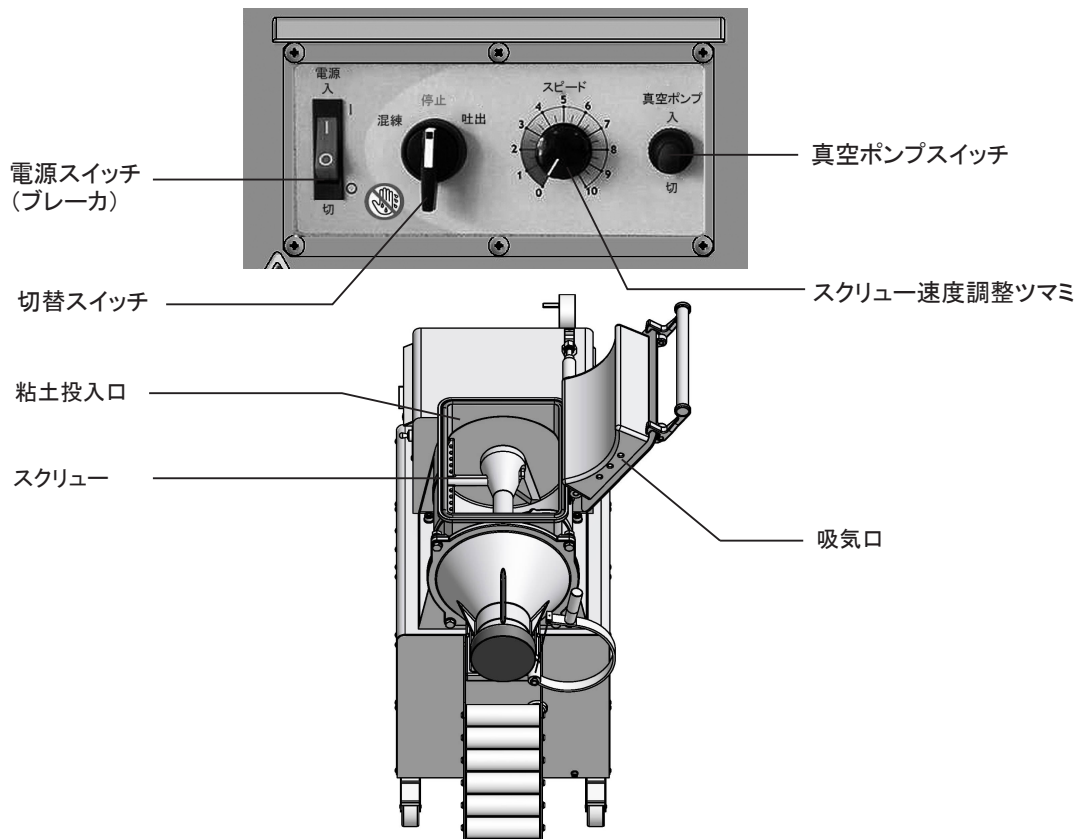
仕様

品名	NVS-07
電源	AC100V ~ 50/60Hz
モータ容量	750W
真空ポンプ	250W
周囲温度	+10 ~ 40°C
周囲湿度	85%以下 (結露しないこと)
標高	1000m 以下
外形寸法	1200 (受板含む) × 420 × 890mm
質量	本体 140kg
スクリー	1 軸式
吐出口径	φ 90mm
粘土の投入量	25kg まで
吐出能力	330kg/h

各部の名称



操作パネル



梱包内容

部 品	個 数	備 考
本体	1	
受板	1	
前蓋	1	
プラグ変換アダプタ	1	
両口スパナ	2	17 X 13 ノズル、スクリュー取付け・取外し用
六角棒レンチ	1	幅 2.5mm カッターのステンレス線交換用
取扱説明書	1	
保証書	1	

据付・準備

- 混練機は大変重たいので、倒れないように取扱には十分注意してください。



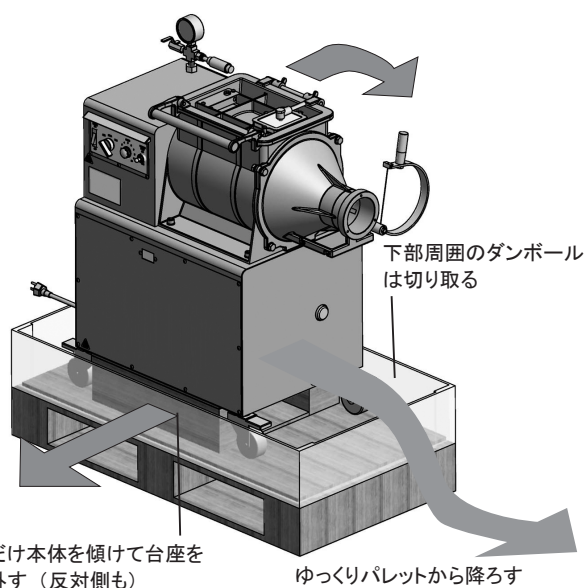
危険

製品質量は約 140kg あります。開梱作業は 3 人以上で行ってください。

(開梱例)

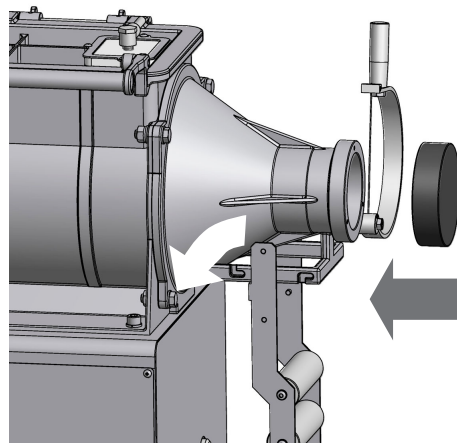
- ・ 製品上部及び周囲のダンボール、緩衝材を取り外す。
- ・ 下部周囲のダンボールを切り取ってください。
- ・ 少しだけ倒し、製品を支えている台座を外してください (2箇所)
- ・ キャスターのロックを解除してください (4箇所)。
- ・ しっかりと製品を支ながら、ゆっくり前方へ押し出し、パレットから降ろします。

部品箱には受板、付属工具、取扱説明書、保証書が入っています。



(据付)

- ・ ガタつかないように水平な場所に設置して、キャスターはロックしてください。
- ・ 受板はノズル吐出口下部にのせます。
- ・ 前蓋はノズルに取り付けてください。



ご使用の前に

粘土の種類、硬さ、加水量によって混練状態が変わります。上手に粘土を混練するためには、操作に慣れていただく必要があります。使用方法を良くお読み頂き、ご使用ください。

インジケータの表示と内容

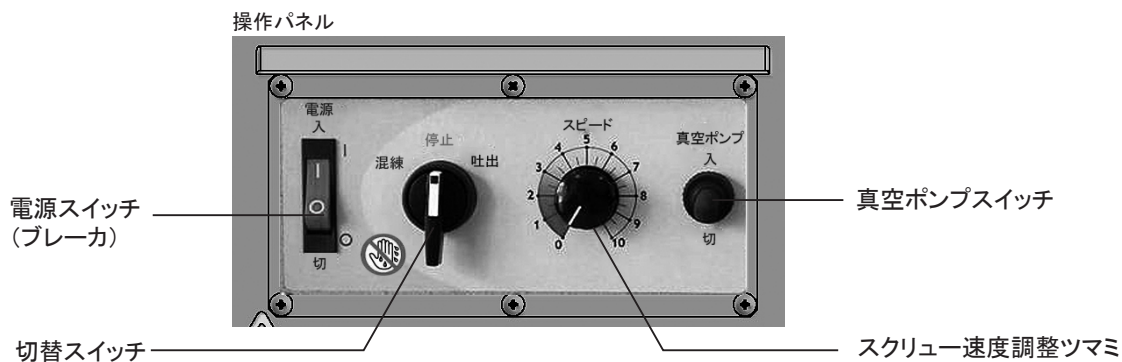
●インジケータの表示

表示	表示内容	備考
0.00A	モータへの出力電流を表示します。製品の消費電流とは異なります。	下記、電流値と粘土の状態の関係の図を参照ください。
OL1	過負荷エラー 粘土が固い、多すぎる場合に表示されます。	水を入れる、又は粘土を減らしてから再度起動してください。エラー表示は切替スイッチを一度【停止】にするとリセットされます。
Er6	スタートチェックエラー 電源を入れたときに、切替スイッチが【混練】又は【吐出】側に入っているときに表示されます。	切替スイッチを一度【停止】にしてから【混練】又は【吐出】にすると運転を開始します。
LU	電源電圧が不足している場合や、電源を切った直後に再度電源を入れた場合に表示されます。	インジケータの表示がすべて消えてから電源を入れてください。

●電流値と粘土の状態の関係

電流値	粘土の状態
2.0A 以下	粘土がスクリューに付着して空回りしている。
2.0 A ~ 2.3A	粘土が少し軟らかい。
2.3 A ~ 3.0A	適当な粘土硬さ。
3.0 A ~ 3.2A	粘土が少し硬い状態。
3.2A 以上	過負荷 連続運転時には停止します。

運転



各スイッチの機能説明

電源スイッチ (ブレーカ)	電源の入・切をします。過負荷などで電流が大きくなると自動で OFF になります。	
切替スイッチ	混練	粘土の混練
	停止	スクリューの停止、及びエラー発生時のリセット
	吐出	粘土の吐出
スクリュー速度調整ツマミ	スクリュー回転速度の調整	
真空ポンプスイッチ	真空ポンプの入・切をします。 (ケース内が真空の時には、真空ポンプが運転できない場合があります。真空運転後、真空ポンプを切にして、再度運転する時には真空コックを開いて常圧にしてから真空ポンプを入りにしてください。)	

※非常時は、コンセントから電源コードを引き抜いてください。電源コードには、遮断器としての役割もあります（非常時すぐに電源コードが抜けるよう設置してください）。

※切替スイッチが【混練】又は【吐出】側のときに電源スイッチを入れてもスクリューは回転しません。切替スイッチを一度【停止】の位置にしてから、混練又は吐出を選択してください。

※過負荷などでモーターが停止し、インジケータにエラー表示（OL1 等）が出た場合は、切替スイッチを一度【停止】の位置にしてください。エラーのリセットができ、再度運転することが可能になります。

使用準備



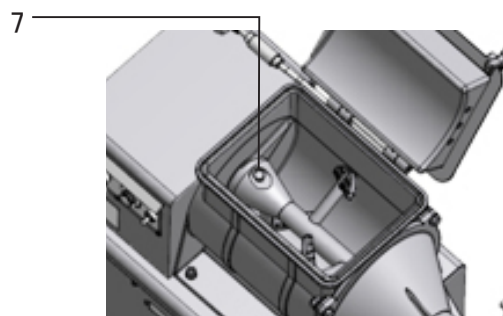
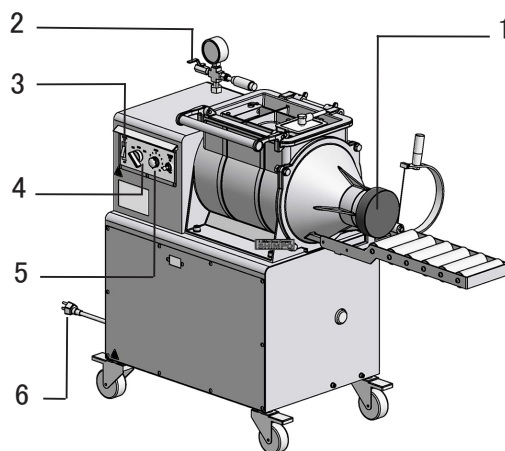
危険

電源プラグは濡れた手で操作しないでください。

1. 前蓋を取り付けてください。
2. 真空コックを開けてください。
3. 電源スイッチが切れていることを確認してください。
4. 切替スイッチが【停止】の位置にあることを確認してください。
5. 真空ポンプスイッチが切れていることを確認します。
6. 電源コードをコンセントに差し込んでください。
※コンセントにアース穴が無い場合は、プラグ変換アダプタをご使用ください。
7. スクリュー固定ボルトが緩んでいないか確認してください。
ご使用前に必ず毎回確認してください。スクリューが外れると破損する恐れがあります。

意図しない動作（不具合）について

- ・電源コード及びその扉開閉センサのケーブルが破損した場合、感電及びショート危険があります。
- ・扉開閉センサ及びそのケーブルが破損した場合、扉の開閉に関わらずスクリューが回転したり、しなったりする不具合が発生します。
- ・内部回路が破損した場合、「回転方向の切替」及び「回転速度の調整」ができなくなるおそれがあります。
これらの不具合が確認された場合は使用をやめ、購入先または弊社にご連絡ください。



運転方法

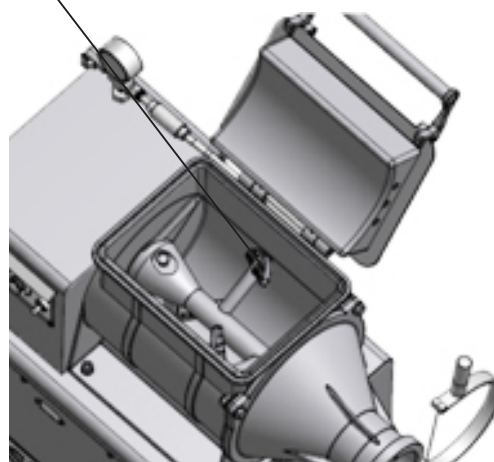
1. 粘土を用意する

- ・投入可能な粘土は約 25kg（完成質量）です。粘土の量が少ないと、混練に時間がかかったり、粘土が吐出されなかったりします。また、硬い粘土を砕きながら混練する場合は、一定以上粘土で満たす必要があります。
- ・塊となっている場合は、拳大より小さくしてください。
- ・水分が多い粘土だけではスクリューの羽根に粘土がくっついてしまい、混練ができません。水分が多い粘土を混練する場合は、乾燥させてから入れるか、乾燥した粘土と一緒に入れてください。

2. 粘土を入れる

- ・一度にすべての粘土を入れようとすると、上蓋が閉まらなくなります。スクリューの上部が見える程度までとしてください。
- ・混練することでケース内部に隙間ができます。入らなかった粘土は、少し混練してから追加投入してください。

スクリューの上部が見える程度に。



塊は、拳大より小さく。

注)

満タンまで粘土を入れると混練作業が出来なくなるため、1割程度隙間を開けてください。

3. 水を入れる

乾燥した粘土の場合：

水の量が少ないと過負荷によりスクリーが停止します。また、水の量が多すぎると粘土が柔らかくなりすぎ、混練や吐出が出来なくなるので、水溜りが出来ぬよう少しずつ水を入れ、粘土を湿らせてください。

少し硬くなった粘土の場合：

水の量が多すぎると粘土が柔らかくなりすぎ、混練や吐出が出来なくなるので、粘土の表面が濡れる程度の水を入れてください。

注)

フィルターに粉末が詰まってしまう恐れがあるため、水を加え適当な固さになる前は真空ポンプを動かさないでください。

4. 上蓋を閉める

- ・ 上蓋をします。ケースと上蓋の接触面に粘土が付いている場合は、粘土を拭き取ります。確実に上蓋の爪がケースに引っかかるよう、ハンドルを押し下げます。

5. 混練工程

- ①電源スイッチを【入】にし、真空コックを閉じて
- ②真空ポンプスイッチを【入】にします。真空計の値が徐々に上昇し 0.09MPa に達したら、
- ③切り替えスイッチを【混練】側へ回し、
- ④スクリー速度調整ツマミをゆっくり 6 ~ 8 に合わせます。

- ・ 粘土の投入量が少ない場合は、スクリーを停止させ粘土と水を追加します。スクリーを停止するには、スクリー速度調整ツマミを 0 に戻し、切替スイッチを【停止】にあわせ、電源スイッチを【切】にします。
- ・ しばらく混練を行い、モーターの電流値が 3.0A を超えるようであれば水を追加してください。そのまま放置すると過負荷となりスクリーが停止します。

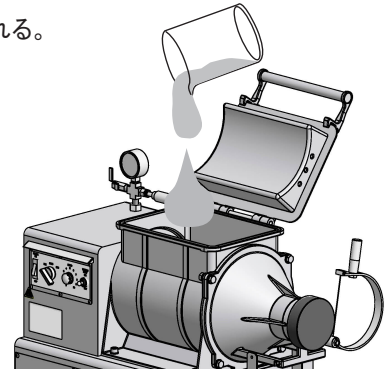
注)

スクリー速度調整ツマミは 0 ~ 3.5 に合わせて使用しないでください。低速でスクリーを回転するとモーターに大きな電流が流れ、保護機能がはたらき、スクリーが自動停止します。

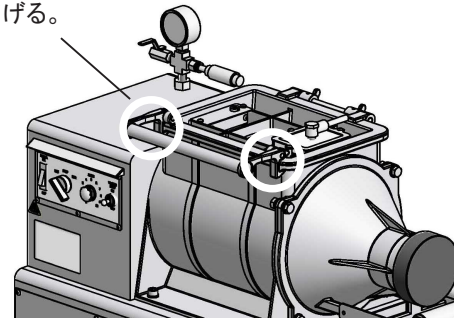
注)

上蓋には扉の開閉状態を感知するセンサーがあります。本体に振動を加えたり、粘土の塊が大きく、転がるなどして振動が発生したりする場合などは、センサーがスクリーを一時的に停止させます。センサーが頻繁に働き、モーターの起動停止を繰り返すと、過負荷状態となり運転を停止することがあります。

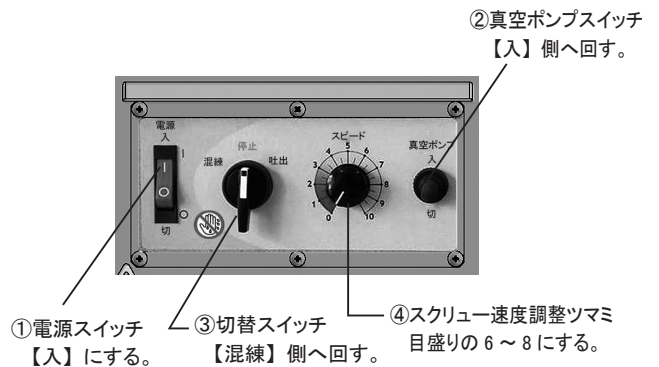
適量の水を入れる。



上蓋の爪をケースに確実に引っかけ、押し下げる。



危険 濡れた手でスイッチを操作しないこと



注)

スクリーの運転は連続 2 時間※で自動停止し、インジケータに“END”の表示が出ます。その場合、切替スイッチを 1 度【停止】の位置に戻すことで、再度運転することが可能になります。粘土を混練し続けると摩擦熱により粘土やケースが熱くなるので、2 時間以上連続して運転する場合は、上蓋を開け冷却時間を設けてください。真空引きを行っている場合、摩擦熱により内圧が上昇し、吐出口と上蓋の隙間からドベが噴き出すことがあります。

※切り換えスイッチを 1 度【停止】に戻すか扉開閉センサーが反応すると、タイマーはリセットされます。

6. 混練状態の確認

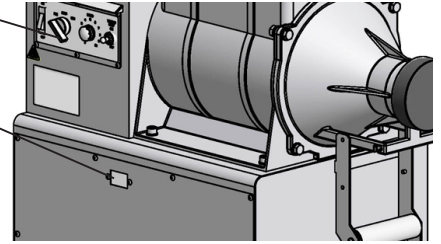
しばらく混練しモータ電流値が一定になったら、切替スイッチを【停止】、真空ポンプスイッチを【切】にし、真空コックを開けて粘土の状態を確認してください。粘土が固ければ水を追加し、軟らか過ぎるようであれば、固い粘土を足して再度混練してください。

注)

脱気しながら粘土を吐出すると、吐出した粘土は硬くなるので、使用される粘土の硬さよりも軟らかめにしておきます。

切替スイッチを【停止】に

インジケーターで電流値を確認



7. 真空引き（脱気）工程

- ・粘土の固さが適当になったら、上蓋のパッキン周りと吸気口付近の粘土を掃除後、上蓋を閉じます。上蓋とケース部分に粘土ついていると、真空圧が上がリません。また、吸気口部分に粘土が付着していると、真空計の値は上がりますが、ケース内部が真空にならない恐れがあります。
- ・前蓋がきちんと取付いているか確認します。前蓋も粘土が付着していないか確認してください。
- ・真空コックを閉じ、真空ポンプのスイッチを【入】にします。真空計の値が徐々に上昇します。0.09MPa程度になることを確認してください。
- ・切替スイッチを【混練】側へ回します。ゆっくりとスクリー速度調整ツマミを回し6～8に合わせます。

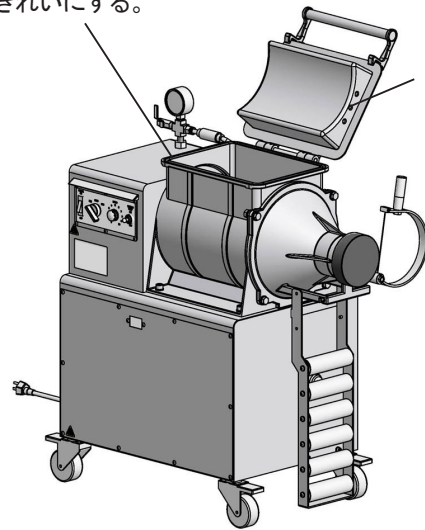
注)

急激に真空圧が上昇する場合は、吸気口付近の扉とケースの隙間を粘土がふさいでいる可能性があります。隙間部分の粘土を取り除いてください。隙間部分の粘土を取り除いても解消されない場合は、粘土の量が多すぎることが考えられます。粘土の量を減らしてください。

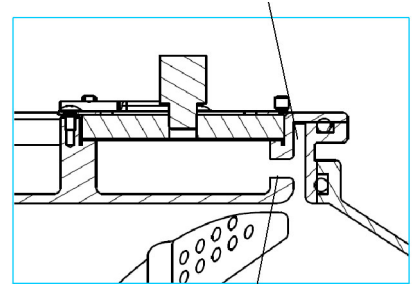
- ・混練させてから**2～3分間**真空ポンプとスクリーウの運転を継続してください。

上蓋とケースの合わせ面をきれいにする。

上蓋とケースの隙間、吸気口部分の粘土を取り除く。



上蓋とケースの隙間



吸気口

上蓋とケースの隙間、吸気口部分に粘土が詰まると脱気できません。

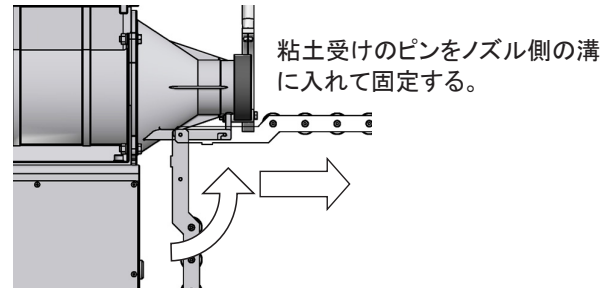
大きな粘土の塊りを一度に投入しないでください

一度に大きい粘土を投入すると、粘土が流れにくくなり、ムラになります。切れ目ができないように小分けにした粘土を途切れない程度に次々と投入すると良い粘土ができます。

磁器土などをお使いのお客様は、しばらくの間粘土にスクリーウやケースの表面の摩耗粉が混ざることがあります。これは、スクリーウやケースの鑄肌表面の凹凸が粘土によって削られる為です。しばらく粘土を通すと、摩耗粉の混入が減ってきますので、不要な粘土などをしばらく通して頂くことで摩耗粉の混入をおさえることができます。

8. 吐出工程

- ・粘土受けをセットします
- ・混練を行い、約3分経過後、切り替えスイッチを【混練】側から【吐出】側へ切り替えます。このとき真空ポンプは運転のままです。
- ・粘土がノズルから出てきたら、前蓋を取り除きます。
- ・カッターで粘土を適当な長さに切断してください。



9. 停止・終了

- ・粘土が吐出されなくなったら切替スイッチを【混練】側にし、ノズル部に残った粘土をケース内に戻します。粘土がケース内に戻り切ったらボンと音があるので、その後真空コックを開け、スクリューを停止します。
- ・このとき、真空ポンプ内部の水分を乾燥させるため真空ポンプは約1分間、空運転を行います。

注)

真空ポンプ内部が湿ったまま放置すると、故障の原因になります。

- ・空運転終了後、真空ポンプを停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜きます。
- ・ケース内の粘土が乾燥しないように、前蓋をしっかりと取り付けます。
- ・ノズル部に粘土を残しておくと、次回使用時にノズル部の脱気ができなくなるので、ノズル部の粘土は必ずケース内に戻してください。
- ・空気漏れしていると粘土がケース内に戻らないので、上蓋のパッキン周りや吸気口付近の掃除と、ノズル部の粘土を押え隙間を塞いでください。

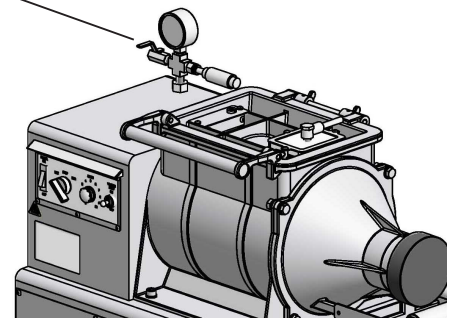
注)

ノズル内の粘土が硬くなると、粘土再生機の使用時に粘土が出ません。

注)

粘土受けを閉じる時は、ゆっくりと操作し、垂直になるまで手を放さないでください。

真空コックを開け、スクリューを停止します。

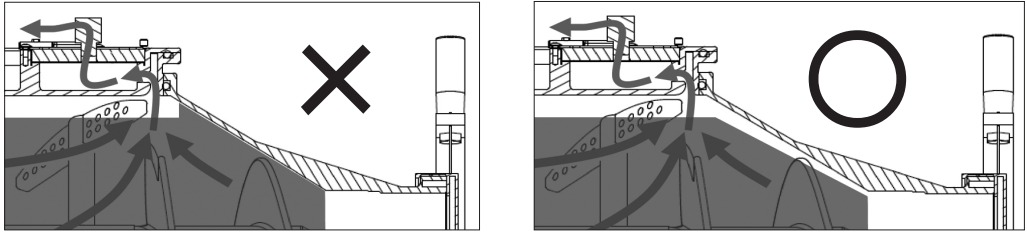


危険 濡れた手でスイッチを操作しないこと

● 上手に粘土を混練するためのアドバイス ●

1. 水を入れた直後は、スクリューと粘土が引っ付いてしまい、空回りをします。空回りをしても、しばらく混練を続ければ次第に均一に混ざります。
2. 粘土の量が少ないと、なかなか混練出来なかったり、粘土が吐出されなかったりします。
3. 粘土の量が多いと吸気口の付近の隙間に粘土が詰まってしまい、脱気が出来ません。脱気工程前に隙間に粘土が詰まってしまう場合は、粘土の量を減らしてください。
4. 脱気を行うと粘土が固くなります。この為、少しやわらかめの状態で脱気を行ってください。

運転中のトラブル（こんなときは）

現象	原因	対策
粘土が出ない	粘土が少ない	ケース内に粘土が充満する程度まで粘土を追加する
	ケース内の粘土が軟らかすぎる	粘土が軟らかいので、少し硬い粘土を入れる
	ノズルの粘土が固い	ノズルの粘土を掃除する
吐出口からささくれた粘土が出続ける	ノズル先端（筒部）に硬い粘土が付着している	ノズル内部を掃除する
粘土が回りながら吐出する	粘土が柔らかい	少し硬い粘土を入れる または、暫く上蓋を開け粘土を乾燥させる
	真空引きが出来ていない	真空引きを行う
吐出された粘土が中空になる	粘土の量が多い または、ノズル内に粘土が詰まっている為ノズル先端（筒部）に空気が残ってしまっている	粘土の量を少なくする
		ノズル部の粘土を除去する
		
スクリーが停止する。 電源スイッチ（ブレーカ）が落ちる	混練時の粘土が硬い	水を加えて粘土をやわらかくする
	大きな塊がスクリーとケースに噛み込んでいる	塊となっている粘土を取り除く
	粘土の量が多い	粘土の量を少なくする
ノズルの粘土が固くなった。	ノズルの粘土が乾燥している。	ノズルを外して掃除する。
真空圧が低い 真空がなかなか上がらない	上蓋部の吸気口3点を指で塞いでも真空が上がらない場合 チューブが外れている、またはチューブが裂けている	チューブをはめ直す またはチューブを交換する
	上蓋部の吸気口3点を指で塞いで真空が上がる場合 A) 上蓋とケースの隙間が開いている B) フィルターが詰まっている	A) ケースと上蓋の合わせ面を濡れ雑巾などで綺麗に掃除する B) フィルターを掃除する
粘土の空気が抜けていない	吸気口まわりに粘土が詰まっている	脱気工程前に、吸気口周りをきれいにする きれいにしても混練をするだけで粘土が詰まってしまう場合は、粘土が多すぎるため、粘土の量を減らす
	脱気工程の時間が短い	真空で混練する時間を長くする
真空室に粘土が上がってくる	粘土が多い	真空室の蓋（アクリル板）を外して粘土を取り除く
真空ポンプが運転できない	ケース内が真空になっていて、ポンプの弁が動かない	ケース内が真空の時には、真空ポンプは運転できない時があるので、真空コックを開けて常圧にしてから真空ポンプを運転する
真空コックを開放しても上蓋が開かない	吸気口周りに粘土が詰まり、ケース内部が真空状態のままとなっている	ノズル側から細い棒状のものを突っ込み、ケース内部に空気を入れる

手入れ・メンテナンス・分解

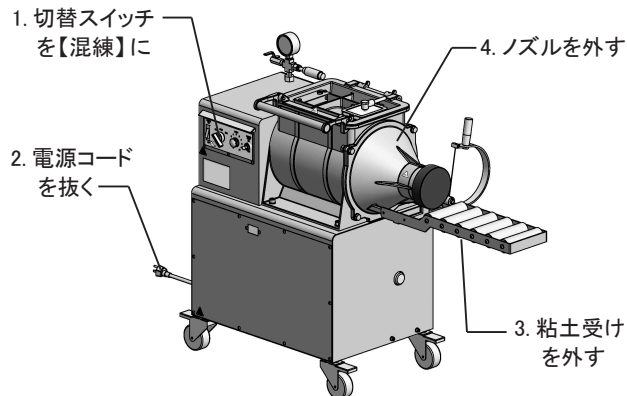
分解

1. 切替スイッチを【混練】にしてスクリーンの止めボルトが上にくるようにスクリーンを回転させます。
2. 電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
3. 粘土受けを外してください。
4. ノズルを外し、ノズル内部を掃除してください。ノズルは重量がありますので、十分注意して取り扱ってください。
5. スクリューを外してください。
 - ①スクリーン固定ボルトを緩めて、スクリーンを引き抜きます。
 - ②スクリーンを掃除します。スクリーンのモータシャフト取付穴はきれいに掃除します。湿った雑巾でモータシャフトの粘土はきれいに掃除してください。
6. ケース内部を掃除してください。
ケース内部に水を流しての掃除はしないでください。
電気機器に水がかかると故障の原因になります。



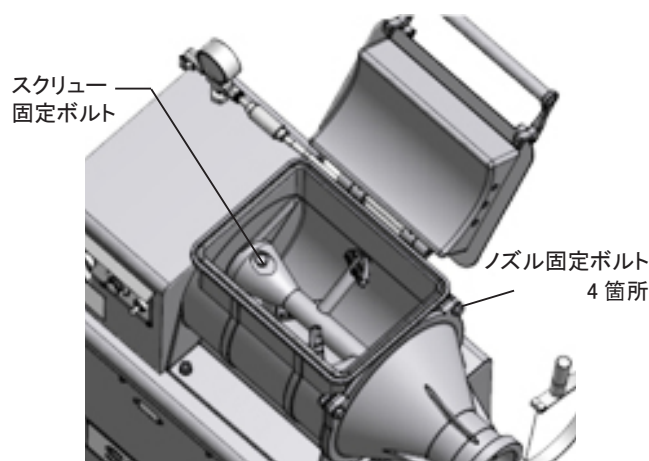
危険

必ず電源プラグを抜いて作業をしてください。濡れた手で、電源プラグを操作しないでください。



組立

1. モータシャフトとスクリーン取付穴を掃除します。
粘土が入っているとスクリーンが取り付けません。
また、傷が付き、組立・分解ができなくなります。
2. スクリューをモータシャフトに取り付け、スクリーン固定用ボルトをしっかりと締めます。
3. ケースのノズル取付面とノズルのOリング取付面はきれいに掃除してください。
4. ノズルにOリングを取り付け、ノズルをケースに固定します。



試運転

1. 電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。
粘土は入れないで試運転をします。
2. 蓋を閉じます。
3. 電源スイッチを【入】にします。
4. 切替スイッチを【混練】にしてスクリーンが回転するかを音で確認します。
5. 本体に振動、ガタつき、異常音がないことを確認します。
6. 蓋を開けるとスクリーンが停止することを確認してください。

フィルター交換

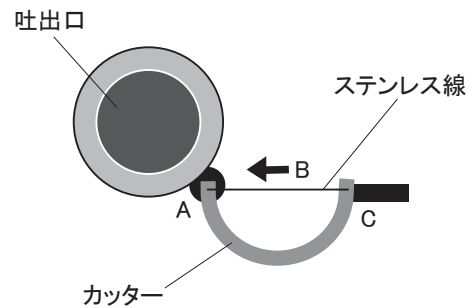
フィルターが目詰まりを起こし、ケース内部が真空にならないときはフィルターを交換してください。

ステンレス線（粘土切り）の交換

ステンレス線が切れた場合は、次のように交換してください。

- ①切れたステンレス線を外します。
- ② A 側にステンレス線をとめます。
- ③カッターを B の方向に少し曲げ、C 側にステンレス線をとめます。

市販品のステンレス線（ピアノ線でも可）
φ 1.2mm をお求めください。



接合面のパッキン（ゴムリング）について

使用状況や経年変化により、真空引きがしづらくなった場合は交換してください。

廃棄方法

- ・各自治体にて廃却方法が異なりますので、自治体へ確認してください。
- ・廃棄の際は分解しないでください。

ニデックドライブテクノロジー株式会社

各種 WEB ページご案内



お電話・問合せフォームでのお問い合わせはこちら

<https://www.nidec.com/jp/nidec-drivetechnology/inquiry/>



国内外営業拠点情報

<https://www.nidec.com/jp/nidec-drivetechnology/corporate/network/sales/>

Copyright NIDEC DRIVE TECHNOLOGY Corporation. All Rights Reserved.

ニデックドライブテクノロジー株式会社

日本電産シンボ株式会社は 2023年4月1日に「ニデックドライブテクノロジー株式会社」に社名変更しました